

城北

平成 27 年 3 月 1 日現在	
総世帯数	3,523
総人口	7,690
男	3,675
女	4,015

見聞 地区 建て替えを機に町会発足

深志高校のすぐ南に近代的な高層住宅群が見えます。ここが県営住宅蟻ヶ崎団地、即ち深志ヶ丘町会です。

一面の農地の中に

高齢者福祉団地

昭和 27 年、斜面の農地を造成し団地の建築が始まりました。その頃は木造平屋建ての長屋が一般的でしたが、蟻ヶ崎団地は鉄筋コンクリート 3 階建てで近代的なモデル公営住宅として脚光をあびました。当時の新聞に「浴室、水洗便所、ガスコンロ付きの台所、四畳半と六畳二間、南面に洗濯場、三階を突き抜けるゴミ捨て装置云々」と写真入りで紹介されました。29 年にはブロックモルタル作り 2 階建て 3 棟も完成し全戸で 157 戸。集会場や遊園地も備えていました。



それから 40 年以上が経ち建物は老朽化し手狭にもなってきたため、平成 5 年から 10 年にかけて建て替えられました。耐震構造の鉄筋コンクリート 4 階 6 階建ての建物は計画の段階から高齢者福祉に重点を置く団地として構想されました。5 階以上の棟にはエレベーターが設置され、室内の段差はなく、階段、トイレ、風呂には手すりを取り付けられるなど至る所に配慮がされています。間取りは 3DKY (6 畳、8 畳の和室、6 畳の洋間、ダイニングキッチン、浴室) と 2DKY です。団地のいたるところに植栽され、特に桜の木は数えきれず、北側の八重桜の美しさはすばらしいです。

中庭には児童遊園地も設けられています。

親睦行事の後はカラオケで



平成 14 年に蟻ヶ崎デザインセンターが完成し町会に加わりました。総世帯数 169 戸、名前も新たに蟻ヶ崎深志ヶ丘町会が発足しました。

お花見、七夕、納涼会、敬老祝賀会、忘年会、新年会と行事も多く、深志ヶ丘公民館に集い親睦を深めています。一時期少なかった子どもの数も増え七夕祭り、青山様ぼんぼん、三九郎などの子ども会行事も盛大に行われています。花いっぱい活動も盛んで毎年 50 を超えるプランターと花壇に苗を植え、美しい花を咲かせています。最近では高齢者(同居を含め)や母子家庭の割合が多くなり、おじさん世代が少ないため、次の町会長候補者がいないというような状況もあります。親睦行事の後は和気あいあいとカラオケを楽しみ、町会長を中心に役員みな協力体制で快適に住みやすい町づくりをめざし頑張っています。

文化講演会

松本が誇る擬洋風

重文開智学校 校舎を語る

2 月 27 日、講師に松本城の研究専門員で田町町会長の後藤芳孝さんを迎え、「重文開智と明治の木造校舎」と題して講演会を行いました。



開智学校の建築の特色は建物の真中に八角の塔がそそり立ち、正面には唐破風の屋根の下にペランダが設けられた車寄せが張出しているところです。さらにペランダには龍の飾り物をつけ、唐破風の屋

開智学校は地元から多額な寄付金を集め明治 9 年女鳥羽川畔に建設、筑摩県の第一番小学として開校しました。設計に際し、棟梁の立石清重は東京や横浜を訪れ、当時の大蔵省や開成学校など先進的な建物を参考にしました。

根にエンジェル風の彫刻が付けられています。

文明開化の時代、大工の中には西洋の手法を取入れ日本風のなかに西洋風を盛り込む建築を行う者がでてきました。これが擬洋風(洋風になぞらえた意)建築と言われているもので各地に学校や役所として建てられました。市内は山辺が現存し、岡田・中山・波田などにありました。県内では中込学校も有名です。



擬洋風の特徴や各地にあった明治期の建物について詳しく説明された後、「和風の建築に洋風を取り入れるという冒険と工夫を果敢におこなった地元の大工の心意気を感じたい」と結ばれました。

